## ネバード・レイ博士 の証言(要約)

マヌエル・ネバード・レイ博士は1932年5月21日生まれ、 1955年サラマンカ大学で医学部一般外課程を修了、一般外科および外傷専門外科医。

## 2004/01/21

マヌエル・ネバード・レイ博士は 1932年5月21日生まれ、1955年サラマンカ大学で医学部一般外課程を修了、一般外科および外傷専門外科 医。

私は今、アルメンドラレホ(スペイ ンのバダホス県)に住んでいます。 バダホス県健康保健センターで外傷 の専門医として1962年まで勤めまし た。1962年にアルメンドラレホへ引 越し、1980年までメルセス修道会が 経営する病院の院長および一般外 科・外傷外科部長を勤めました。こ の病院でもあらゆる種類の外科処置 を手がけ、あいかわらずレントゲン を利用していました。、1982年から はザフラ健康保健センター(バダホ ス市)で医療活動をするようになり ました。

1992年11月上旬、農業省でいくつかの問題について説明を得ようと、マドリッドへ出かけました。スペインがECに加盟した後、大規模ぶどう園がどのような状況に置かれるかを知るためでした。家族が何ヶ所かのぶどう園を所有しており、他のものを栽培する方が有利になるかどうかに関心があったからなのです。

省を尋ねたときは、その分野の担当 者が不在で、代わりに農業技師のルまった。代わりに農業技師のようでは、私の手、特に指対が直にといるとにものであることにあること、X線を長年にわたのでも、と、で、慢性の下ではいると説明しました。サードを設っているといいでは、福者ホセマドを頼むようにもいるというです。

あの時からすぐに願い始めました。 そして数日後、医学の学会に参加をいた。 を当れました。 をかけれました。 をかれました。 をかれました。 をいるないでは本当にもいる。 をいるないではないではないではないではないではないではないではないではないでいませんでいませんでした。 がいることはしていませんでしたが、 をいることはしていませんでしたが、 がいることはしていませんでしたが、 がいることはしていませんでしたが、 がいることはしていませんでしたが、 それでも、時々は祈りのカードを使いました。

すでに述べたように、長年にわたって慢性の放射性皮膚炎を患っていました。症状があらわれたのは1962年、ちょうど結婚した年のことです。それ以後、両手の指の体毛が抜け落ち、出血斑が浮き出て、症状は進み、医療活動を減らさなければならない状態になりました。

1992年11月、農業省を訪れたとき、 私の手の症状は悪化していました。 手の皮膚はあかぎれ状にひび割れ、 潰瘍になっていました。潰瘍は指に もできていて、最も目だったのは、 左手の甲と中指の側面に広がった大 きな潰瘍でした。大きなもので直径 2 cmはありました。

痛みはますますひどくなり、1992年の夏ごろには、外科処置から手を引かざるを得なくなりました。しかし、できるだけ気づかれないように

していたので、知っている人はそんなに多くないはずです。また、治る見込みがないので、医者は誰一人として私に手の治療を勧めませんでした。ある医者は、皮膚に軟膏を塗り傷の消毒をするように勧めてくれましたが、既に私はそうしていました。

祈りのカードを頂いた時から、福者 ホセマリアの取次ぎを頼み始めまし た。その時から指は徐々に良くなり ました。既に述べたように、この慢 性放射線皮膚炎は不治の病で、いか なる治療も役に立ちません。一人の 皮膚科医は潰瘍を塞ぐために皮膚移 植を申し出てくれましたが、間に合 いませんでした。手が見えないよう にしていましたが、たくさんの人が 手の病気を証言できるはずです。妻 をはじめ、病理解剖専門医の息子、 皮膚科医のイシドロ・ペラと皮膚科 学教授ヒネス・サンチェス・ウルタ ドなどです。

私は、癌の転移を恐れていました。 しかし、それは起こりませんでした。それどころか、約15日で傷は消えてしまい、今のようになりました。完全に治ったのです。これは、福者ホセマリア・エスクリバーの取次ぎのおかげです。

それ以来、通常の仕事に戻り、外科 手術もしています。

アルメンドラレホ、1993年6月30日

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/nebadoreibo-shi-nozheng-yan-yao-yue/(2025/12/16)